

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初に掲げた、5つの大きな柱のもとに、部会を開き今年度の目標を立て実践につなげるよう努めている。	法人理念「私たちの願い」からホーム独自の2つの目標を立てている。今年度は「利用者が自分の役割を感じて頂ける。」「利用者の思いや言葉に耳を傾ける。」といった目標を立て、食堂に掲示している。職員は部会や勤務の切り替えの申し送り時などにその都度確認している。職員同士の連携が密に取れており、理念や目標にそぐわない行動が見られた場合はお互いに注意しあうようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	書道教室、小学生との交流のほか、保育園児との交流ができた。地域のボランティアさんの踊りや大正琴の来訪があった。	町会に加入し会費を納めている。地域の方が敷地内のゲートボール場を管理し利用したり、野菜などの差し入れもいただいている。また、大雪の際には除雪もしていただくなど、地域と密接な関わりがある。近くの保育園や小学校との交流も年に数回ある。更に毎月ボランティアの来訪があり、お話の会、大正琴の演奏会、書道教室などが開かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事へのお誘いも頂いたが、参加までは実現できなかった。地域の公民館が隣接されていることもありお祭りのお囃子を披露していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、日頃の活動の様子(行事、事故報告)、利用者の様子を報告し、話し合い、意見を頂いている。	奇数月の開催で年6回行っている。家族、区長、民生委員、市職員、ホーム職員が参加している。今年度から家族全員に声掛けし、関わりを増やしていただくために出席できる方には参加していただいている。会議では利用者の外出を増やせないかとの提案もあり、個別の外出を増やすなどホームの運営に活かしている。会議を複合施設全体の文化祭に合わせ開催したこともあり、利用者との交流の場ともなった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議には、市の担当者にも参加いただいている。また困難事例等相談することで、行政での支援を受けより良い支援につなげられた。	毎月市のケアマネジャー会議へ出席し、管理者が役員を務めたこともある。また、利用者の後見制度について市窓口相談し、利用者支援にもつなげている。3ヶ月に1度介護相談員の訪問もあり、意見や助言を運営に活かしている。介護認定の更新調査はホームで行うことが多く、利用者、家族、管理者が出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で委員会を設けており、拘束が必要とされた場合事例検討を行うようにしている。玄関の施錠はしているが、出来るだけ開錠する機会を作るように心がけている。	身体拘束については契約書に明文化され、家族にも説明している。また併設有料老人ホームとの合同の身体拘束委員会があり、その都度事例検討したり、ホームの部会にて話し合いをしている。家族とも話し合い、職員が目が届かない時のみ玄関の施錠を行っている。	

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議、部会で取り上げ防止に努めている。言葉の暴力について見過ごされないよう職員間で話し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際、利用者で成年後見制度を申請した方がおり身近に経験することができた。管理者は、部会を通して職員に報告した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	退去、解約時の説明については、わかりやすく伝えるようにしている。また、家族から問い合わせがあった場合には、敏速に対応することを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が無い場合運営推進会議の出席を家族全員に通知し参加していただくように変更した。	自分の思いを伝えられる利用者が大半であるが、伝えられない利用者については表情や動作から汲み取るようにしている。家族の面会は多くあり、その都度、意見等を聞き、グループホーム部会で検討するようにしている。月1回「あい愛通信」を発行し、家族の元へ送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議、部会を行っている。その中で上がった意見を検討し改善に努めている。	職員の意見はリーダーを通して施設長や管理者に上げられ、職員にフィードバックされている。また、ホームのリーダーは会社全体のリーダー会にも出席しており、全体会議やホーム会議で情報を共有している。会議に出席できない職員へは連絡ノートで申し送っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、日々職員とのコミュニケーションをとるよう心掛けている。月に1、2回部会を開き会議録を作成するとともに、必要に応じて施設長に報告、面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が、研修に参加できるよう計画を立て勤務内で参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GHへ、リーダーと共に見学に行き意見交換を行うことができた。		

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅を訪問し、本人や家族からの悩み、不安、今までの生活歴を聞くこと、初期段階には担当のケアマネからの情報を得て入居後の安心へと繋がるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人や家族の思い、要望を聞くようにしている。確認した情報を共有することで、入居当日から本人に寄り添ったお手伝いが出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、面接において、本人、家族の意向を確認をし、必要とする支援に努めるような対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、家庭のような雰囲気づくりに努め、利用者の声をゆっくり聴く、話す機会を作るようにしている。食事は利用者、職員一緒に食卓を囲むことを続けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時はもちろん遠方の方でなかなか来訪できない家族には、電話等で近況を伝えている。また本人から家族へ電話をすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもちろん、親戚、友人が面会に来ていただいている。ホームとしては、来訪しやすい環境作りに努めている。	市内からの面会者が多い。ホーム利用以前に住んでいた近所の方が面会に来られることもある。地元のなじみの農協に買い物に行ったり、日帰りで年末年始やお盆に自宅へ帰られる利用者もいる。関係者と協力し親族の集まる会へ参加された方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時にはささいなトラブルは起きる。最近では、他利用者が仲裁にはいるなど利用者同士の信頼関係が出来てきているように感じている。		

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの生活が困難になった場合でも、家族や本人の思いを大切に、次の住まいが決定するまでの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で、利用者個人の願いや思いを話された時、思いに沿えるよう職員間で話し合い実現に向けての支援に努めている。	食事や入浴についての希望があり、極力その思いに沿えるようにしている。また、職員と利用者が1対1になった際に思いを伝える方もおり、その都度職員間で思いの実現に向けて話し合っている。自宅が気になる方には職員の体制を整えば一緒に行くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者全員ではないが、アルバムをもってきていただいている。時々アルバムをみながら若かりし頃の思い出話を聞くことが出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援の状況や身体状態の様子を記録し、職員間で情報の共有できるようにしている。また朝、夕の2回の申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン→個別援助計画→モニタリングと職員、ケアマネと連携しプランに取り込むようにしている。	担当制を取っており、各職員は1~2名の利用者を担当し、ケアプランを基に個別援助計画を立てている。3~6ヶ月でモニタリングを行っているが、状態に変化が見られた場合にはその都度モニタリングをし、家族に実情を伝えたり面談をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録表を活用し日々の支援での気づきがあった場合、職員間で意見を出し合いよりよい支援になるように努めている。そのために情報の共有を図れるようノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出で宿泊が厳しい方には、遅い時間の帰所時間など希望に沿えるようにしている。		

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の散歩や近くの図書館へ出かけている。希望により美容室、スーパー等へかけるなどの支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の受診、状況に応じて他医療機関への受診を必要とする場合は、家族に相談の上決定している。受診時は、家族、ケアマネも同行するよう対応している。	利用開始時に確認しているが、協力医に切り替えられる方もいる。かかりつけ医受診の際は家族が同行している。かかりつけ医の受診で認知症の型が分かり、利用者に対して適切な対応ができるようになった例もある。家族が受診に同行できない時は管理者が対応し、その都度報告している。協力医の往診は週1回ある。併設の特定施設に看護師がおり、ホームの申し送りにも参加しているので随時指示を受けている。希望者には市の特定健診やレントゲン車の受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師の医療連携体制を整えている。一日の朝、夕の申し送りに参加し情報の共有をはかり、早い段階で適切な指示対応が敏速に行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、週1回の面会を心がけ、病院関係者より利用者の情報の共有を把握し、家族含め今後の生活、支援について相談を行うように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状悪化・急変時の対応についての確認表及び看取りに関する意思確認表を作成し家族に説明を行い意思確認を実施した。	看取りの指針や確認票があり、家族に説明している。2月に初めて看取りを行った。対応のフローチャートを作成したり、部会で話し合いを設けたりして良い看取りの支援ができたという。現在も対象となる利用者があり、看取りの支援を行っている。ホームと同じ1階フロアには家族が宿泊できるゲストルームが設けられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実際、看取りの利用者さんに関わることで、職員同士で急変時の対応については常に確認すること、図表にしてステーションに張り出しをして日々の支援につなげた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施。防災に備え、非常用食品、ヘルメット等準備を行った。	消防署立ち合いの全員参加の避難訓練と独自の防災訓練を実施している。マニュアルも整備されており、夜間は特定施設の職員との連携がとれるようになっている。複合施設全体として5日間分の非常食が備蓄されている。	地域との関係性も構築されているので、さらにそれを深めるためにも防災訓練の際に地域の方々にも参加していただき、災害時に協力が得られるような体制を作られることを期待したい。

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部研修への参加。利用者の個性に応じた声かけを行うようにしている。声掛けの声の大きさ、タイミングにも配慮している。	外部研修や部会にて利用者の人権や接遇について考える機会がある。利用者を尊重したより良い接遇の為、部会では初心に戻ろうと呼び掛けている。男性職員がいないため、異性介助の問題などは起こっていない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、思いや希望など引き出せるよう心掛けている。生活で自己決定していただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員配置による変更はあるが、基本個々のやりたい趣味など楽しんで過ごされている。時には、やりかけのままだと次の行動に行く事を嫌がる方には最後までやっていただけるようペースや達成感などを大切に考えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時は、自分で選んでいただけるようにしている。汚れてしまった時は小まめに着替えを行っている。季節に合ったものが着られるように支援している。希望により美容院にも出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おはぎ作り、ほう葉巻、おやつ作りなど計画を楽しんでいる。食事作りはなかなか厳しく出来ない。後片付けは一緒に行うこともある。	ミキサー食で介助が必要な利用者が若干名いるが、殆どの利用者は常食で自力摂取されている。利用者が高齢になり調理を行うことは困難になってきているが、体調が良い時に簡単な調理や食器洗いなどを行う利用者もいる。献立は職員がその都度立てており、利用者の希望が取り入れられている。食事にはケアガーデンで収穫した野菜や地域の方からの差し入れも使用されている。利用者とのおやつ作りも毎月実施されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量には配慮し配膳している。水分は、摂取量を記録している。飲み物の種類にも配慮し野菜ジュース、カルピスなども提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うよう声掛けしている。入れ歯の方には、夕食後はポリデントの使用を促し清潔を保持できるよう支援を行っている。		

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけている。トイレ誘導の必要の方には決まった時間で声掛けしている。排泄用品について、記録を参考にカンファを行い必要に応じ見直しを行うようにしている。	布パンツ・オムツ使用の方が若干名で、他の方はリハビリパンツを使用されている。排泄チェック表を基に声掛けを行っている。ポータブルトイレを使用されている方も数名いる。排泄ケア用品については随時家族に相談し、検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表を活用している。便秘予防の為に定期的に乳製品、バナナ、野菜ジュースなど提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、順番などは本人の希望に沿うように行っている。拒否のある方には無理せず入れる時に入れるように支援している。また、季節のしょうぶ湯、ゆず湯も行った。	基本的には週2回入浴している。入浴拒否の方には無理強いせず、柔軟な対応をしている。利用者のその時々状態に応じてスタッフ2名で介助することもある。しょうぶ湯など、季節が感じられるお風呂も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休憩を取っていただくよう声掛けしている。就寝時間はまちまちではあるが、個々のペースで生活できるよう心掛けている。シーツ交換は週に1回実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬、服薬管理表を活用してきちんと飲んだかを確認。服薬の変更については、専用のノートを作成し、全職員が周知間違いの起こらないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、片づけ、清掃など個人の得意分野を生かせるよう支援している。散歩、外出など個別支援に努めている。カラオケも楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食は食べたい物の希望を聞き個々の行きたいお店へ個別に出かける事を行った。個人的に自宅の様子を見に出かけたりするなど柔軟な対応に心がけている。	車いすの方も楽しめるように事前に準備し、寿司や鰻、そば、スイーツなどの外食支援を行っている。季節ごとに外出行事があり、お花見やぶどう狩りなどで外出もしている。日常的にも玄関で外気浴したり、畑へ散歩したりしている。	

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活歴や習慣などで、お金を持参し買い物や外出を希望される方は、ご家族の了解を得てあらかじめ財布やお金を職員がお預かりするようにしている。外出や買い物に出かける時に本人が持って行かれるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はなかなか書くことは厳しいため行っていない。電話については、常に希望がある時にはこちらからかける事もある。また家族や友人から電話があった場合は「利用者にお繋ぎしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように、季節の花を植えたり、飾ったり、利用者が作った作品を飾っている。毎日、こまめな清掃を行って清潔が保たれるよう心掛けている。	ホームには食堂の他にリビングスペースがあり、開放感あふれる造りとなっている。エアコンと床暖房で空調管理がされている。壁には利用者の作品や外出時の写真などが飾られている。共用トイレ前には提灯が下げられており、それとわかるような工夫がされている。また複合施設には地域交流スペースがあり、利用者はカラオケをしたり、特定施設の利用者と交流をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とは別のフロアーがあり、そこにはソファー2か所、作業が行えるテーブル、イスは配置されている。個々の生活で自由に使用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の生活空間を大切に、使い慣れた物を置く、使いやすいように配置されている。お部屋の中のものについては、本人と相談しながら整理整頓を心掛けている。	全居室が畳部屋となっており、エアコンや洗面台が完備されている。利用者は自宅で使い慣れた家具や物を置いている。一人の利用者の居室にはお位牌や大正琴、完成した塗り絵などが飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活の中で、各自が出来る事は職員と一緒に協力して行うようにしている。また、洗濯干しやたたみなど出来ない方の分も出来る利用者が行ってくれている。		